

4.0 内装設置型補強工事

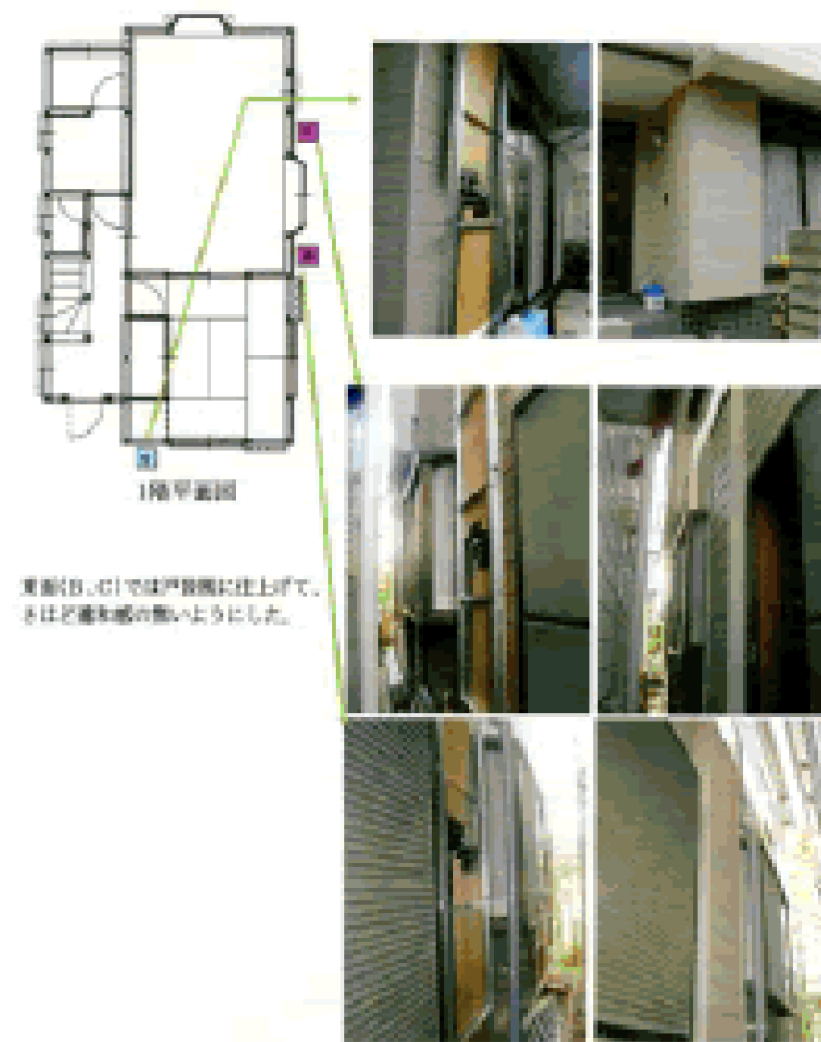
内装設置型では、取り付けた側の壁及び一面天井・床を補強しての通り付けとなる。
下の図に記した（1）、（A）のように押入れ裏に施工すれば、上下方向共に3ヶ所ずつ取り付くようにするため、転倒・変位手間は短くて済む。



4.1 GHハイブリッド制震工法を用いた耐震補強工事

4.1.1 外装設置型補強工事

外装設置型は、外壁を削がずに施工が可能である。補強が最小限で済むので、損傷も軽くて済む。既存外壁より1センチ程度の厚みが出るので、透気は戸建風に比し上げる。壁の位置に取付けた部分（2）では、既存外壁との取り合いを考慮して、透気感があまり出ないようにした。



【講評】この工法は、オイルダンパによる制震装置と接続特殊パネルおよびスタッド骨組等で構成される制震パネルを内壁あるいは外壁に適用するものである。居ながら補強が可能であり、一カ所あたりの補強効果が高いため、比較的少ない補強力所で所定の耐震性能を確保することができ、低価格で施工可能な工法である。また、制震部材による応答制御といった新しい耐震補強工法のアイデアを取り入れたものであり、佳作にふさわしい工法である。